

1 「本質的な問い」による単元構想について

「働く」ことに関するイメージの変容

○ 生徒たちは、「なぜ僕らは働くのか」という本質的な問いに対して、自分なりの答えを見つけようと積極的に学習に取り組んだ。「働く」ことに関するイメージの変容は右の通りである。このような考えの変化が起きたのは、地域で働く方々のお話を聞いたり、仕事を体験したりと、たくさんのお話を学ばせて頂いたからである。今回の学習が基盤となり、高校・大学・就職と、人生の節目で今一度「なぜ働くのか」という本質的な問いに立ち返り、考え続けていくきっかけになるのではないかと感じる事ができた。

	学習前	学習後
「働く」とは？	<ul style="list-style-type: none"> ・しんどい ・生きるため (お金を稼ぐため) ・自分のしたいことができるのは一部の人 ・生きがい など	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事で周りの人も自分自身も幸せになること ・チャレンジし続けること ・自分とみんなの支えになること ・お金も大事だけどお金だけが全てではない ・家族のため など

2 単元で育成を目指す資質・能力について

生徒へのアンケート結果

【知識・技能】

○ この単元を通して、「働く」ということを自分ごととして捉え、自身の将来について考えることができた。また、将来の夢や目標があるかどうかのアンケートの結果、学習前よりも学習後の方が肯定的回答をした生徒の割合が増えた。職業選択を含めた将来設計を行ったことで、これからの生き方について思考できたと考えられる。単元末の生徒の振り返りからも「働く」と「生き方」は密接に関係していると理解できたということが分かる。

	学習前	学習後
将来の夢や目標がある	肯定的回答 78.6% 否定的回答 21.4%	肯定的回答 85.7% 否定的回答 14.3%

単元末の生徒の振り返り

色々な方のお話を聞かせていただいて仕事への考え方が変わりました。最初は仕事って、お金を稼ぐためにあると思っていただけ、人の役に立つなどお金を稼ぐためだけではないことがわかりました。仕事を選ぶことはこれからの人生を選ぶのと一緒なので、今自分が本当にやりたいことを見つけて何事にもチャレンジしたいと思います。

「働く」ことはお金をもらうため、家族で生活するために大切だと始めは思っていたけれど、色々な方のお話を聞いたり実際に体験したりして、自分がやりたいことや好きなことを生かせることや、誰かのためではなく自分が本当にやりたいことを仕事にすることもできることに気付きました。これからは、『私は将来何をしたいのか』『何をしたら幸せを感じられるか』など自分の将来に向かって色々と考えていきたいです。

● アンケートで否定的な回答をした生徒が約14%いた。こうした生徒も、学習中には自分の目標や夢を描くことができていることから、この度の学習が自分の将来やこれからの生き方につながっていることを実感させるための手立てが十分でなかったと考えられる。

【思考・判断・表現】

○ 地域の方々から学ばせて頂いたことから感じた思いを自分の言葉で表現することができた。生徒の振り返りから、考えの変容が見て取れる。教えて頂いたことや体験したことをその都度、素直に受け止めて考え、本質的な問いに対する自分自身の答えの質を高めていくことができた。

生徒の振り返りの変容

6月7日 振り返り

(地域で働く方のお話を聞いて)

「仕事って必ず何かやらないといけない!」と思っていたけれど、自分ができること、やりたいことをいかしながら仕事ができるということがわかった。そのためには自分で努力していきたいと思った。仕事では、伝える力、聞く力、非言語能力が必要だから、日々の生活で力を身に付けていきたいと思った。

6月17日 振り返り

(地域で働く方のお話を聞いて)

今日のお話を聞いて、仕事とは人との関わりを大切にすることだと感じた。そのために、まず自分のコミュニケーション力を高めたい。これからは、人のため、自分のためにみんなを楽しませることができるとなっていくと思った。

10月13日 単元末振り返り

(今まで学んだことをもとに)

みんな同じ学習をしてきた中で、みんな考えた意見(価値観)が全く違うことがわかった。「働く」ということを考えれば考えるほど、どんな職業であろうと働いている大人はすごいと思ったし、感謝をしたいと思った。将来、誰かにすごいと思ってもらえるような大人になりたい。

【主体的に学習に取り組む態度】

○ 【知識・技能】【思考・判断・表現】にも記載したように、生徒は調べ学習や体験学習などを通して、身近で働いている人からたくさんのお話を学び、自分自身の将来のことをこれからも継続的に考えていこうとする姿勢が見られた。また、自分自身と他者や社会との関わりにも注目することができた。

3 「デジタル機器」の活用

○ 生徒の考えを深めるために効果的にタブレットを活用することができた。特に、ジャムボードを用いて行った将来設計やスプレッドシートを用いた振り返りが効果的であった。ジャムボードやスプレッドシートをクラス全員で共有することで、お互いの意見を見たいときに自由に見ることができる。そうすることで、生徒間で自然と会話や交流が生まれ、より自分の考えを深めることにつながった。また、振り返りを全員で共有することで、自分の思いと周りの人の思いを比較することが容易になり、「みんなほとんど同じ学習をしてきたのに、考えたことは1人1人違うことがわかった」というように自分が感じたことだけを振り返るのではなく、周りの人の考えもふまえた振り返りを行わせることができた。